

北鳴中学校 学校経営ビジョン

(1) 校訓

豊かな心を持ち、たくましい人となるよう互いに磨き合ひましょう

(2) 学校教育目標

子どもたちが自分自身の力で幸せになるために	
・自分の考えを持つ力	Think
・自分を表現する力	Output
・チャレンジする力(失敗を恐れない力)	Challenge
を育成する	

(3) めざす学校像、生徒像、教師像

(ア) めざす学校像

- ①安全・安心で生徒が毎日通いたくなる学校
- ②生徒の可能性を伸ばす、誰もがこころ落ち着いて過ごせる創造的な学校
- ③地域社会や保護者に開かれ、信頼される学校

(イ) めざす生徒像

- ①気配りや思いやりを大切にし、協力することのできる生徒
- ②目的を持ち、主体的に学習や活動ができる生徒
- ③体を鍛え、自己指導能力をもって行動できる生徒
- ④人のため、地域や社会のために積極的に活動できる生徒

(ウ) めざす教師像

- ①生徒への深い愛情を持ち、個々の実態に合った指導ができる教師
- ②学校運営への参画意識を高く持ち、主体的に考え、行動できる教師
- ③「教師のため」ではなく「生徒のため」の授業を日々研究し、実践できる教師
- ④全体の奉仕者として強い使命感を持って取り組み、地域や保護者の信頼やニーズに応える教師

(4) 学校経営方針

(ア) 主体的に学ぶ生徒を育成する。
(イ) 自己指導能力を持った生徒を育成する。
(ウ) 教師自らが生徒・保護者・地域を愛し、「生徒・保護者・地域に愛される学校」を創造する。

(5) 方策

(ア) 主体的に学ぶ生徒を育成する

- ①教科の本質に迫る「学習課題・まとめ」のある授業を日々研究し、実践する。
- ②教師の発話量をできるだけ減らし、対話を重視した課題解決型の授業を実践する。
- ③指導に対して適切な評価をして、生徒の成長に繋げていく。
- ④個に応じたきめ細かな指導で、基礎・基本の定着を図る。

(イ) 自己指導能力を持った生徒を育成する。

- ① 生徒主導の学校行事などを通して、主体的に考え、活動できる力を育成する。
- ② 確かな生徒理解により、生徒一人一人の良さと可能性を伸ばすように努める。
- ③ 粘り強さや人間性などの、非認知能力を育てる取り組みや仕掛けを探究し、実践する。
- ④ 生徒の 自己有用感を高める取り組みなどを通して、未然防止の生徒指導を実践する。
- ⑤ 生徒自らに任せたり、判断させたりする経験を通して、自己指導能力の育成に努める。

(ウ) 教師自らが生徒・保護者・地域を愛し、「生徒・保護者・地域に愛される学校」を創造する。

- ① 全職員が 学校運営への参画意識を高く持ち、主体的に考え、新たな実践に取り組む。
- ② 学校に関わるすべての職員との連携を強化し、組織的な運営に努める。
- ③ 校区小学校との連携・交流を強化し、連続的・段階的な指導を構築する。
- ④ 細かな連絡と、積極的な情報開示により、家庭・地域に信頼される学校を創る。

(6) 令和6年度のキャッチフレーズ

OUR SCHOOL

～生徒・職員・保護者・地域が誇りを持って大好きと言える学校を創ろう～

(7) 令和6年度の具体的な取り組み

(ア) 主体的に学ぶ生徒を育成する

- ① 生徒が学びたいと思う学習課題を提示し、学び合いを中心とした授業を展開する。
- ② 授業は、見通しを示しながら、生徒自身の言葉でまとめられるように展開する。
- ③ 授業で生徒に委ねる場面を増やし、主体的に学ぶ生徒を育成する。
- ④ 一人一台端末等の ICT 機器を効果的に活用し、個別最適な学びを推進する。

(イ) 自己指導能力を持った生徒を育成する。

- ① 取り組みが前年度踏襲でよいかを検証し、変更・改良をスピード感を持って実施していく。
- ② 生徒が主体的に行動し、自己有用感が得られるような生徒会活動・部活動を実践する。
- ③ 道徳の時間の充実を図りながら、自分自身と周りの人たちを大切にできる生徒を育成する。

(ウ) 教師自らが生徒・保護者・地域を愛し、「生徒・保護者・地域に愛される学校」を創造する。

- ① T P O に応じた 丁寧な言葉遣いで生徒と接し、確かな信頼関係を築く。
- ② 新たな不登校生を生み出さないために、温かい人間関係、魅力的な授業・活動を構築する。
- ③ 風通しの良い職員室、各教科部会の充実を通して、生徒理解・授業改善に生かす。
- ④ 各支援員、業務補助などとの連携を密にし、効果的な運用を行う。
- ⑤ 積極的に情報提供を行うことで、学校、家庭、地域との連携を深める。
- ⑥ 地域行事やボランティア活動への積極的な参加を通して、ふるさとに貢献できる生徒を育成する。

(8) 教職員の業務改善に向けた具体的な取り組み

- ① 学校全体を俯瞰で見、適材適所に適切な人員を配置し、効率よく校務をすすめる。
- ② 日課、学校行事等の 見直しを進め、教職員が本務に専念できる時間を確保する。
- ③ 「拘りすぎ」や「丁寧すぎ」がないかを様々な取り組みで検証し、必要あれば削減する。
- ④ 教職員の意識改革を促進する取り組みを継続的に行い、学校から早く帰りやすい環境を整える。